

黒羽芭蕉の館だより①

このコーナーでは、これから毎月一回、黒羽芭蕉の館の催し物や収蔵・展示資料などについて紹介していきます。

施設のあらまし



黒羽芭蕉の館は、元禄2年(1689)の『おくのほそ道』の旅で松尾芭蕉が黒羽に二週間という長期滞在をしたことを記念して、同紀行300周年の平成元年(1989)10月に開館しました。場所は近世黒羽藩主大関氏(1万8000石)が本拠とした黒羽城の三の丸跡の一角です。



黒羽芭蕉の館の外観

施設は、エントランスホール・芭蕉展示室・大関記念室・青山文庫展示室・特別展示室の各展示室、研修室、和室などから構成されています。

●**エントランスホール・芭蕉展示室**
『おくのほそ道』の概要と同紀行の旅程、芭蕉の画像や近世俳諧資料などを展示しています。

●**大関記念室**
「黒羽藩(大関氏)の政治と文化」をテーマとして、大関家伝来の古文書・書籍・絵画・衣服などを展示。毎年秋にはここを展示替えして、黒羽ゆかりのテーマで企画展を開催しています。

●**青山文庫展示室**
黒羽町名誉町民であった故高瀬青山氏の蔵書の一部を展示しています。

●**特別展示室**
大関家伝来の甲冑や刀剣類を展示しています。

●**研修室**
黒羽芭蕉の里全国俳句大会や子ども俳句大会の作品などを展示し、各種講座の会場としても使用しています。本年3月の土曜日には漢文講座(全4回)も開講予定です。

なお、2月と5月にはここで「黒羽芭蕉の館コレクション展」などを開催しています。

●**和室**
一般の方々の黒羽での投句作品を整理し、投句一覧を作成する投句委員会が毎月開催されます。そのほか句会・茶会などの各種文化活動にも使用できます。

問い合わせ

黒羽芭蕉の館

TEL (54) 4151



彫刻

周遊④

市内で作られた作品とその作者

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

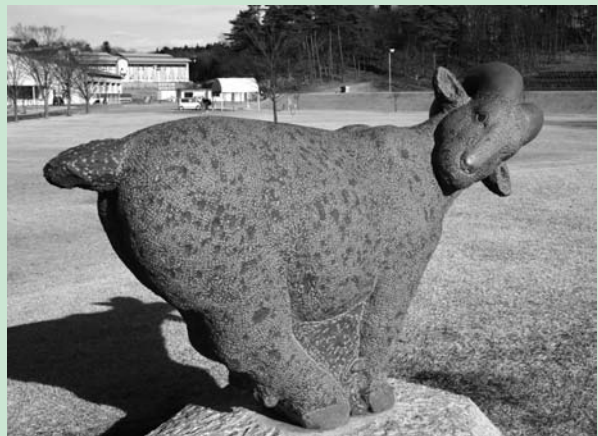


青木三四郎氏

黒羽運動公園の駐車場の東隣にある「多目的中央広場」。ここの小高い芝山のすそにこの彫刻はたたずんでいます。

後ろを振り向く大角のヤギの表情は優しげで、芝生の公園で遊ぶ子どもたちを優しく見守っているようにも見えます。「高い所に登って振り向くお山の大将は何を見ているのだろうか。」という作者自身の問いかけに、いくつかの答えを出しています。それらはすべて、自分よりも弱い者に対する気遣いの言葉でした。「明るい太陽の下、彫刻に触れながら無邪気に、元気に戯れ

設置場所案内図(★印)



お山の大将 青木三四郎 (千葉県) 2009年

る子どもたちの様子を思いながら制作します。」と取り組んだ作品です。

この作者である青木三四郎氏は千葉県生まれで、東京藝術大学美術部大学院を卒業。社団法人新制作協会会員。各地のシンポジウムにも参加しています。子どもや動物をモチーフとした人の心を和ませるような作品を数多く作っています。

問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718